

みんなとともに笑顔いっぱい



みんなとともに



「コカリナ贈呈式」を終え、講師の黒坂さんと矢口さんが「とてもよい子どもたちですね。音楽に親しむ態度ができていて、反応がいいですね」と子どもたちをほめてくださいました。続けて「子どもたちが先生方に愛されている雰囲気を感じました」と話をされました。東京を中心に多くの学校を訪問している方の感覚なので、言葉をそのままありがたくいただくことにしました。



「朝の体力づくり」が始まっています

4年以上の希望する子どもたちが、月・水・金の週3日、「朝の体力づくり」に取り組んでいます。登校指導をしていて感じるのですが、この3日は、子どもたちの登校の出足が早いのです。いつもは始業近くになって姿を見る子どもも、30分以上早く登校するのです。そんな子どもたちの表情を見ると、キラキラしているようにも、引き締まってもいるようにも感じます。気持ちがちょっと高揚しているようです。

本校の子どもたちの運動能力は、決して高くはありません。短距離走ですば抜けた速さをもつ子が揃っているということもありません。でも、今年度も結果を出しました。

練習に取り組んでいる子どもたちは、とても楽しそうです。本当に「走ること」が好きなのだと思います。ある日は、チームに分かれてのリレーを楽しんでいました。日々陸上の練習を楽しみながら次第に力がついていきます。

このような「伝統」が本校に根付いていることをうれしく思います。卒業する6年生から下級生へと、まもなくバトンタッチです。



マリールイズさんの「メッセージ」とは

2月27日（水）5校時、特別非常勤講師 マリールイズ先生を招いての全校授業（講話）を行いました。

「ユニセフ活動」についての映像を見た後、マリールイズ先生の体験談を聞きました。そして、子どもたちの「感想・質問タイム」となりました。

「日本は水道から水を使うことができるけれど、ルワンダの子どもたちは遠くまで水を汲みに行くので大変だと思いました。」

「ルワンダの子どもたちは行きたくても学校へ行けない人もいるのに、日本の子どもたちは学校へ通うことができたと感じました。」

自分の生活と比べることにより、考えるところがあったようです。自分から手をあげて、進んで感想を述べたり質問をしたりできるのが、本校の子どもたちのすばらしいところです。

6校時目は5年生の授業でしたが、ここでもたくさんの質問が出ていました。国際理解の貴重な機会となりました。



※ 2月28日（木）は、欠席者、遅刻者とも「0」でした。とてもうれしい日となりました。

